

# 増築園舎のコンセプト



今回は定員増のための増築に加え、地域の要望の高い「一時保育」のさらなる充実や現園舎に無い機能を補うことを目的に設計を考えました。全天候型の半屋内空間の設置や園庭遊具で備わる運動機能を補うための総合遊具の設置などが挙げられます。

また、定員は増えますが保育室の数も増えるため、今まで以上に各クラスの保育人数を少人数にし、きめ細やかな保育が実現できるようにしました。

そして、子どもたちを刺激する様々な色や造形物を身近に置くことで、子どもたちの感性を高めたいと考えました。

## 基礎・逆張り工法で、断熱性・緩衝性・遮音性が高い

(現園舎は杭を打たず、建物の重さから地盤の支持力を差し引いた分の土を撤去し、そのあとにジオフォーム [発砲スチロール] を敷き詰めた地盤置き換え工法)

(増築園舎は杭を打ち、コンクリートを敷いた上にネダホーム [発砲スチロール] を敷いた工法)

- 戸外・園庭は3歳以上の子どもを中心にした基本遊具を設置  
(滑り台・ブランコ・鉄棒・登り棒・クライミングウォール)
- すべてのプレイコートには、発砲クッションを敷いた上に防滑シートを敷き緩衝性を保障  
(3歳未満児用プレイコートは、ソフト遊具と築山を設置)  
(半屋内プレイコートは、1歳児から使用可能な釣り輪や釣り棒を2か所設置)
- 半屋内広場には総合遊具を設置  
(園庭遊具に無い運動機能を補うための遊具のパーツを組み合わせたもの)
- すべての固定遊具には、落下時の衝撃を吸収するためのセーフティマットを設置
- 増築園舎に木のオブジェを設置
- 屋上のエコグリーンマットに芝生を敷き、子どもがはだして駆け回れる空間を保障
- 屋上に太陽光発電を設置
- 駐車場に畑を設置

- 室内・エントランスを2重扉にし、衛生面の確保と熱効率を良くした設計
- 子どもの安心感の確保と熱効率の向上のため、保育室の天井高を低く設計
- 建物内に死角のない設計
- 一時保育の子どもたちの遊びを保障するため、保育室を2部屋設置  
(3歳未満児保育室・3歳以上児保育室)
- コルクの床を設置  
(現園舎 : 1歳児 2部屋 / 1・2歳児 1部屋)  
(増築園舎 : 0歳児 2部屋 / 一時保育 2部屋)
- 保育室やホールには天窓を設置
- アレルギー食の調理室を設置
- 給食下処理室に、電解水製造機を設置
- ピュアウォーターの給水機を設置
- 調乳室で簡単な調理も可能になる設備を設置
- 子どもも大人も調理体験がしやすい可動式調理台を2台設置
- 絵本コーナーを設置
- 床下収納とロフト収納を設置
- ガラスには飛散防止フィルムを施工